



桜馬場2丁目自治会だより



明けましておめでとうございます
今年もよろしくお祈いします 令和7年元旦

自治会長

班長

副会長

1班

副会長

2班

(兼)

環境部長

3班

総務部長

4班

防災部長

5班

会計部長

6班

婦人部長 (民生委員)

7班

婦人副部長

8班

子ども会会長

9班

監事

10班

監事

11班

1月度主たる行事

3日	金	10:00	消防八分団年始挨拶	フォーレ桜馬場
5日	日	19:00	班長会	桜馬場公民館
7日	火	17:00	出初式祝賀会	矢太楼
9日	木	10:00	総代新年互礼会	諏訪神社
11日	土	9:00	伝八稲荷後片付け	伝八稲荷神社
16日	木	15:00	連合役員会	ふれあいセンター
20日	月	19:00	二十日会	ふれあいセンター
25日	土	11:00	自治会部長会	桜馬場公民館

令和7年新成人該当者



3班

4班

6班

6班

6班

6班

(敬称略)

心からお祝い申し上げます。
家族調査票提出分より

頭の体操

難読漢字

① 竜蝦

② 熨斗

③ 御御籤

④ 点袋

12月度難読漢字解答

① 楚蟹 ずわいがに

② 木菟 みみずく

③ 湯湯婆 ゆたんぼ

④ 襦袍 どてら

長崎の巳年にちなむもの

特別寄稿 長崎史談会会長

新年明けましておめでとうございます。

本年は、巳年、それも乙巳(きのとみ・いっし)の年です。この乙巳というのは、「えと」とも呼ばれる干支(かんし)、すなわち十干十二支の組み合わせからなっています。



川原慶賀筆 蛇図
(ライデン国立世界博物館所蔵)

この十干と十二支を組み合わせると、1番最初が甲子(かっし)、2番目が乙丑(いつちゅう)、3番目が丙寅(へいいん)と続き、最後の60番目の癸亥(きがい)まで全部で60

種にもなります。ちなみに乙巳は、42番目です。これを年にあてはめると、甲子の年から癸亥の年まで60年で一巡するのです。ですから還暦というのは、例えば、今年、乙巳の年に生まれた人は、61年後に再び乙巳の年がまわってくることから還暦(かんれき)といい、長寿を祝うのです。

江戸時代、巳年に長崎で起こった出来事

江戸時代、巳年に長崎で起こった出来事はいろいろありましたが、ここでは4つ紹介します。1つ目は、長崎甚左衛門の長崎退去です。甚左衛門は、大村純忠に仕え、大村藩領長崎村を支配しましたが、1605年(乙巳)、幕府は長崎村を天領としたので、甚左衛門は止むなく長崎を退去、柳川(福岡県柳川市)の田中藩に仕えました。

2つ目は、オランダ商館の出島移転です。オランダ商館は、1609年に平戸に開設されましたが、オランダ貿易の統制を目論む幕府は、いろいろと難癖をつけ、1641年(辛巳)に同商館の出島移転を断行、以後、出島は、1859年の開国まで218年間、オランダ貿易の基地となり、わが国の近代化に貢献しました。

3つ目は、唐人屋敷の完成です。当初、中国貿易は、自由貿易でしたので、多数の中国人が滞在、その数は、当時の長崎の人口の6分の1、約1万人を数えたといわれていますが、その裏では、密貿易が横行、頭を痛めた幕府は、1689年(己巳)に唐人屋敷を造成、中国人を収容しました。

4つ目は、第2次海軍伝習のスタートです。1855年にスタートした第1次海軍伝習は、隊長ペルス・ライケンのもと大きな成果を挙げたので、1857年、隊長カッテンダイケのもと第2次海軍伝習がスタート、併せてオランダ商館医ポンペの指導のもと医学伝習もスタートしました。医学伝習所は、長崎大学医学部の前身で、ポンペが最初に講義を行った11月12日は、同医

学部の開学記念日となっています。

巳年生まれの人長崎にゆかりの著名人

巳年生まれの人長崎にゆかりの著名人のなかで、1571年に長崎開港を断行、さらには1582年に大友宗麟、有馬晴信とともに少年使節をローマに派遣した大村純忠は1533年の、その少年使節で正使を務めた千々石ミゲルと、同じく副使を務めた原マルチノとともに1569年の、長崎の女性西村氏と唐商陳朴純の間に生まれ、唐僧木庵について出家、1677年、聖福寺を開創、開山となった鉄心は1641年の、1805年、長崎奉行所の支配勘定役として約1年間長崎に滞在、『瓊浦雜綴』などを著した戯作者大田南畝こと直次郎は1749年の、1808年のフェートン号事件の責任を取って切腹した長崎奉行松平図書頭は1761年の、長崎高等商業学校、現在の長崎大学経済学部の教授で、古賀十二郎翁と並び称された長崎学の大家武藤長蔵は1881年のそれぞれ巳年の生まれでした。

巳(蛇)年にちなむ諺

巳(蛇)にちなむ諺はいろいろとありますが、「蛇が蛙を呑んだよう」というのは不格好なこと、しかし、「蛇が蚊を呑んだよう」というのはけろり、つまり平気なこと。以下、「蛇稽古」というのは長続きしないこと、いわゆる三日坊主のこと。「蛇竹に上り百足(むかで)地に転ぶ」というのは物事があべこべ、反対のこと、「蛇にカエル」というのは苦手なものには手も足も出ないこと。「蛇の足より人の足」というのは蛇に足があるかどうか論じるよりまず足もとから考えなさいということ、何事も足もとが肝腎です。「蛇の目を灰で洗う」というのは良くみえること。「蛇に噛まれてクチナワに怖じる」というのは無駄に用心すること、すなわち過剰な防衛。「蛇が出そう、蚊も出ぬ」というのは何か事件が起こりそう、何も起こらないこと。「蛇(じゃ)の道は蛇(へび)」というは何でも仲間であればわかること。「蛇は一寸より大概を知る」というのはちょっと見ただけで全体がわかること、「蛇(じゃ)は寸にして人を呑む」というのは英雄は子どもの時から凡人とは違うということなどです。

そこでこの一年、蛇が蛙を呑んだようとか、蛇に蛙とか蛇稽古などと言われぬよう、言われても蚊を呑んだような心境でいたいもの、どうせ蛇が出そうでも蚊さえ出ないのだから。さらには何でも蛇の足より人の足をモットーにして、蛇(じゃ)の道は蛇(へび)であっても、目を灰で良く洗い、くれぐれも蛇足に陥ることなく、一寸より大概を知るような活動をしたいもの、そして寸にして人を呑むと言われなくても、流石と言われるよう努力をしたいものです。

それでは本年もどうぞ宜敷御願いたします。